

平成 17 年度における大規模新規研究開発の事前評価について

1. 評価対象及び評価検討会

最先端・高性能汎用スーパーコンピュータの開発利用

【文部科学省】

概算要求額：41 億円

全体計画：1154 億円

< 概要 >

スーパーコンピューティングについて、今後とも我が国が世界をリードし、科学技術や産業の発展を牽引し続けるため、スーパーコンピュータを最大限利活用するためのソフトウェア等の開発・普及、世界最先端・最高性能の汎用京速（京速 = 10 ペタ FLOPS）計算機システムの開発・整備、これを中核とする世界最高水準のスーパーコンピューティング研究教育拠点の形成により、研究水準向上と世界をリードする創造的人材の育成を総合的に推進する。

評価検討会メンバー

《総合科学技術会議 有識者議員》

柘植 綾夫

《評価専門調査会 専門委員》

伊澤 達夫 NTTエレクトロニクス株式会社取締役相談役

笠見 昭信 株式会社東芝常任顧問

小林 麻理 早稲田大学政治経済学術院教授

座長 土居 範久 中央大学理工学部教授

虫明 功臣 福島大学理工学群教授

《招聘者》

浅田 邦博 東京大学大規模集積システム設計教育研究センター長・教授

天野 吉和 トヨタ自動車株式会社常務役員

岩崎 洋一 筑波大学長

小柳 義夫 東京大学大学院情報理工学系研究科教授

北浦 和夫 産業技術総合研究所計算科学研究部門総括研究員

評価検討会日程

第 1 回： 9 月 20 日（火）15:30～17:30 【新霞ヶ関ビル1階101号室】

第 2 回： 10 月 11 日（火）16:00～18:00 【第 4 特別会議室】

X線自由電子レーザーの開発・共用

【文部科学省】

概算要求額：33億円

全体計画：375億円

<概要>

極めて高輝度のX線レーザーを発振し、一原子レベルの超微細構造、化学反応領域の超高速動態・変化を瞬時に計測・分析することを可能とする世界最高性能の研究基盤施設「X線自由電子レーザー装置」を整備するとともに、発振するX線レーザーを効果的に利用するための研究開発を行い、ナノテクノロジーやライフサイエンスをはじめとする広範な科学技術分野の発展を強力に牽引するための研究開発基盤として共用を図る。

評価検討会メンバー

《総合科学技術会議 有識者議員》

岸本 忠三

黒田 玲子

《評価専門調査会 専門委員》

座長 川合 眞紀 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授

北里 一郎 明治製菓株式会社代表取締役会長

原山 優子 東北大学大学院工学研究科教授

《招聘者》

板東 義雄 物質・材料研究機構 若手国際研究拠点 フェロー

堀 利匡 広島大学放射光科学研究センター副センター長

松下 正 高エネルギー加速器研究機構

物質構造科学研究所 副所長

山田 家和勝 産業技術総合研究所 計測フロンティア研究部門

副研究部門長

若槻 壮市 高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所
教授

評価検討会日程

第1回： 9月22日（木）10:00～12:00 【第2特別会議室】

第2回： 10月12日（水）16:00～18:00 【第4特別会議室】

戦略的基盤技術高度化支援事業

【経済産業省】

概算要求額：9.2億円

全体計画：31.2億円

< 概要 >

我が国重要産業の競争力を支える基盤技術の高度化に向けて、革新的かつハイリスクな研究開発や、生産プロセスイノベーション等を実現する研究開発に取り組む中小企業を支援する。

評価検討会メンバー

《総合科学技術会議 有識者議員》

阿部 博之

柘植 綾夫

《評価専門調査会 専門委員》

大見 忠弘

東北大学未来科学技術共同研究センター客員教授

座長 笠見 昭信

株式会社東芝常任顧問

小林 麻理

早稲田大学政治経済学術院教授

平澤 冷

東京大学名誉教授

畚野 信義

株式会社国際電気通信基礎技術研究所社長

《招聘者》

田中 正知

ものづくり大学製造技能工芸学科教授

山田 伸顯

財団法人大田区産業振興協会専務理事・事務局長

評価検討会日程

第1回： 9月28日（水）18:00～20:00 【第3特別会議室】

第2回： 10月13日（木）15:00～17:00 【第4特別会議室】

2. 調査・検討項目

(1) 評価検討会においては、以下の項目について調査・検討する。

- A. 科学技術上の意義
当該研究開発の科学技術上の目的・意義・効果。
- B. 社会・経済上の意義
当該研究開発の社会・経済上の目的・意義・効果。
- C. 国際関係上の意義
国際社会における貢献・役割分担、外交政策との整合性、及び国益上の意義・効果。
- D. 計画の妥当性
目標・期間・資金・体制・人材や安全・環境・文化・倫理面などからの妥当性。
- E. 成果、運営、達成度等
投入資源に対する成果、運営の効率性、及び目標の達成度等。
評価結果の反映状況の確認等。

ただし、Eについては、新規研究開発であることから、その内容を考慮。

(2) 総合科学技術会議が行う国家的に重要な研究開発の評価は、国の科学技術政策を総合的かつ計画的に推進する観点から行うものであることから、個々の案件の必要性、有効性、効率性についての評価という視点のみならず、当該研究分野全体の中における評価対象案件の意義、当該研究分野における他の研究開発との関係等も視野に入れ、高い次元から検討し、評価を行う。

3. 検討スケジュール

9月16日(金) 評価専門調査会
・評価検討会の設置、スケジュールの確認等

9月20日(火) } 第1回評価検討会
~ 28日(水) } ・ヒアリング、追加質問と論点候補の抽出

追加質問を回収し府省へ対応を発注

10月11日(火) } 第2回評価検討会
~ 13日(木) } ・追加ヒアリング、論点整理

評価コメントを回収し評価報告書原案を作成

11月 4日(金) 評価専門調査会
・評価報告書(案)の検討

11月下旬 総合科学技術会議
・評価報告書(案)に基づく審議・結論